
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

センターだより 第110号 (通巻第177号)

2012年7月27日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

■ 「特別支援教育基礎研修」のお知らせ

平成24年度特別支援教育基礎研修を、附属特別支援学校との共催で下記のとおり実施いたします。第8回目を迎える今回は、児童相談所と学校の連携についてより一層の理解を深めるために、山梨県福祉保健部中央児童相談所において児童虐待対策幹として支援に携わっていらっしゃる藤森雅恵先生を講師にお迎えいたします。

本研修は、教員と臨床支援従事者・学生に限定しての参加となっております。該当の方は、是非ご参加ください。参加費は無料です。7月27日までに事前に申し込むことになっておりますが、当日も受け付けております。

- ・日時：平成24年8月1日(水) 午前10:00～12:00
- ・会場：山梨大学教育人間科学部 J号館5階 A会議室
- ・講演：山梨県保健福祉部中央児童相談所 児童虐待対策幹 藤森雅恵先生
「児童相談所と学校の連携－虐待のケースを中心に－ (仮題)」
- ・申し込み：メール、Webにて受け付けます。お名前、所属、連絡先、駐車場利用の有無をお知らせください。
メール：jissen-ml@yamanashi.ac.jp
Web：<http://www.kjb.yamanashi.ac.jp/> からお入りください。

■ 「教育相談室」をご利用ください。

教育相談室が(L号館4階L-428)をどうぞご利用ください。ご利用に際しましては、事前に教育実践総合センター事務室(J号館4F)にて空き状況を確認の上、ご予約ください。鍵は教育実践総合センター事務室にて手配をご依頼ください。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

■ 教職支援室が立ち上がりました。

この4月から、教職支援室がL号館1階に開設されました。7月11日(水)には、中村教育人間科学部長を始め関係者により「教職支援室」の看板上掲式を行いました。

教職支援室の目的は、学生の教員志望への意識喚起や教育現場体験の充実を通して、学部学生の教員採用に結びつけることにあります。そして、この目的達成のため、教職支援と教育ボランティアの2つの部門で活動を行っています。

教職支援部門では、学生との面談を通して教員志望への意識改革や教員採用に係る相談を行っています。7月までに、学校教育課程1，2年次生全員と進路の希望状況や大学生活について面談しました。また、本年度の教員採用試験を受験している4年次生以上の学生に対して、論作文や面接等の指導・支援を行っています。

教育ボランティア部門は、将来教員を目指す学生に教育現場での体験を多く積んでもらうため、教育ボランティアの活動を支援しています。本年度前期は、述べ170人以上の学生が40数箇所の学校や教育関係施設等で活動しています。

学校の話や教員の仕事など教育現場のこと、教員採用試験に向けての取り組み等について教員を目指す学生の支援を行っていますので、気軽に教職支援室を訪問するようご指導をお願いします。



教職支援室のスタッフ



教職支援室内の様子

■ 教育ボランティア学生交流会を実施しました。

平成24年度「教育ボランティア学生交流会」が6月27日（水）に行われました。

今年度の学生委員会が企画運営し、音楽教育専修3年の丸山南さんから教育ボランティア体験発表をしていただきました。教育ボランティアをしている中で子どもたちと接して新たに発見したことや困ったことなどが紹介されました。この発表の後、2グループに分かれて学生同士で討議を行いました。

○学習支援をしている最中に子ども同士がけんかになりそうになったときの対処方法は。

○男の子や女の子それぞれに接し方が違う。上手にコミュニケーションを取る方法は。

○特別な支援を必要としている子どもへの指導の仕方はどうしたらいいの。

○低学年の子どもの指導の仕方。叱り方。声かけの仕方はどうしたらいいの。

など、実際に体験している学生同士、自分が体験している悩みを相談していました。それに対して別の学生から解決の糸口になる発言もあり、同じ悩みをみんな抱えていて共有できてよかった。という感想や自分が行っている受入先以外の話しが聞けてよかったという感想などが寄せられました。



■ 教育ボランティア指導員による学生の活動報告

今年度新たに立ち上げられた教職支援室の教育ボランティア部門では、学生ボランティア活動への支援を行っていますが、私たち指導員は、学生への支援のみならず、ボランティア受け入れ先と学生との双方にとって有益な活動になるための橋渡しの役目も負っていると考えています。受け入れ校等への訪問を行い、学生の活動を参観し助言したり、担当者との懇談等を行ったりしながら、ボランティア活動の質をより高く充実したものにしたいと思っています。以下は、実際の活動の報告です。

① 韮崎市立穂坂小学校・南アルプス市立若草小学校の様子

6月26日(火)には韮崎市立穂坂小学校、7月3日(火)には南アルプス市立若草小学校を訪問し、活動内容を参観してきました。どちらの学校でも学生は真心をもって子どもたちに接し、骨身を惜しまないボランティア活動を行っていました。

両校のボランティア担当の先生方からは、「一斉指導で遅れがちな児童への指導や集中が続かない児童への声掛けなどにも努力してくれていて大変助かっている」との感謝の言葉をいただきました。一人でも多くの教員が欲しい学校現場にとって、ボランティア学生は重要な存在となっています。

また学生たちにとっては多くの先生方と関わり様々な指導法を学ぶ絶好の機会であるだけでなく、教師として必要な教育観・児童観なども養える貴重な経験となっています。



② 中央市立豊富小学校・甲斐市立敷島小学校の様子

豊富小学校では2名の学生が活動中です。校長先生や教頭先生、また教務主任の先生によると、事前の打ち合わせに始まり、授業のTTなど、熱心に誠実にボランティア活動を展開しているとのことでした。担任の先生のみならず、学校全体から感謝の気持ちが伝わってきました。何やら自分が褒められているような温かな気分になりました。

敷島小学校には、4名の学生がボランティア活動を展開しています。訪問した時間には、Nさんが3年生の算数の授業でTTをしているというので、校長先生の案内で、授業参観しました。彼女は、はじめ、どこにいるのか不明でした。それほど、学級の中に溶け込んでいました。支援を要する子どもには、膝たちで、その子の目線になって、指導していました。校長先生によると、今年度の4名の学生さんはもちろんだが、昨年度の方もとても熱心に活動していただいた、とのことでした。次の2枚の写真は敷島小学校での活動の様子です。

今後も、より多くの学校を訪問し、学生と受け入れ先とのつなぎ役として、微力ではありますが力を尽くしたいと思っています。

(以上新設された教育ボランティア指導員からの報告)



敷島小学校での活動の様子

■ Moodle 初心者向け講習会のご案内（第1報）

本学では、すべての学部・大学院等のすべての科目について、Moodle という e ラーニングシステムが使えるように設定されています。このたび、本学における Moodle を初めて使う方向けに、講習会の入門編を実施することとなりました。先生ご自身の科目で、e ラーニングを始めるにあたっての設定の仕方や、簡単に使える便利な機能、気をつけるべき点等について PC を操作しながら実習します。受講の先生や主催者側の講師陣が、教師の立場や学生の立場、TA（ティーチング・アシスタント）の立場等をロールプレイしながら実習を行います。途中からの参加や、途中での退出等も可能です。どうぞ、お気軽にご参加ください。

- ・日時：2012 年 10 月 9 日(火) 16:30～18:00
- ・場所：J321 教室（J 号館 3 階 情報処理教室）
- ・講師：成田雅博 氏（教育人間科学部附属教育実践総合センター）
- ・内容：「Moodle 操作の手引き」を見ながら e ラーニング設定実習
ー自分のクラスのレポート提出環境を設定しよう

○参加対象者について：この講習会は主に教員を対象としますが、会場に余裕がある場合には職員や学生も受講できます。

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見るすることができます。